

川魚捕りに 児童が夢中

天竜区佐久間町の団体「観察会」



浜松市天竜区佐久間町の地元住民らでつくる任意団体「佐久間と天竜川流域の未来プロジェクト」は27日、同町の大竜川支流の大干瀬川で「おさかな観察会」を開いた。参加した地元の子供たちは、川に生息する魚を捕まえて見たりして、自

大干瀬川の浅瀬で魚を捕まえる参加者
―浜松市天竜区佐久間町

然を楽しんだ。

同町の小学生と保護者ら約30人が参加。子どもと保護者は大干瀬川の浅瀬に入り、網でメダカやオイカワなどを捕まえた。

観察会の後半では、スタッフが川で捕まえた生き物を紹介。カワムツやアカザなど手のひらよりも小さな淡水魚に子供たちははくき付けた。浦川小1年の山崎陽己さんは「初めて魚を捕まえることができて楽しかった。川も気持ちよかった」と笑顔を見せた。

観察会は、子供たちに天竜川の魅力を知ってもらおうと初めて開かれた。この企画に続いて、佐久間町の自然や文化に触れるイベントを予定しているという。

※この記事・写真は静岡新聞の許諾を得て掲載しています。

魚捕まえたぞ



たも網を構えて魚を探す子どもたち―浜松市天竜区佐久間町で

天竜・大干瀬川で生物観察

子どもたちが身近な川の生物に触れる「おさかな観察会」が、浜松市天竜区佐久間町川台の大干瀬川であった。地元の小学生から高校生の十五人が参加した。

子どもたちは川に入ると足元の小石を踏み付け、隠れている魚をおびき出してたも網で捕まえた。体長五〜十五センチほどのオイカワ、カワムツ、カワヨシノボリなどが見られ、子どもたちは捕まえた魚を掲げて満面の笑みを見せた。環境調査会社の社員が、捕まえた魚の見分け方や、川辺にすむ虫の生態などを説明した。

浦川小一年の山崎陽己君（こ）は「川遊びはするけど、魚を捕まえたのは初めて。工夫して捕れるようになった」と話した。

NPO「がんばらまいか佐久間」を中心に、市や国土交通省浜松河川国道事務所、電源開発（Jパワー）などが協力して企画。今後もタムの見学会などを予定している。（野瀬井寛）

※この記事・写真は中日新聞の許諾を得て掲載しています。